

資料

日本資本主義確立期の「会社」および「役員名簿」(一)

後 藤 靖

はじめに

(1) この作業は、わたしの年来の研究テーマである日本の資本制的社会構成体への移行・転化の過程を解明するための一環をなすものであり、直接的にはその基礎過程としての経済構造の変化を明らかにするうえでの第一次的作業の一つにあたるものである。

社会構成体とくに資本制的社会構成体とは何かという一般概念と日本への具体化については、別稿にゆずらざるをえないが、さしあたって、ここでは社会の存在形態の究極の規定要因である経済構造⇨下部構造とそうえに聳立する政治・法律の上部構造との統一体をさしている。したがって、資本制的社会構成体の成立というものは、資本制的生産様式が社会

の経済構造を支配・規定するだけではなく、上部構造わけても国家がブルジョア国家としての形態と内容をもつにいたったことをいうのである。

ところで、戦前の日本についての通俗的見解は、きわめておおざっぱにいえば、(イ)維新変革を「未完成」という限定づきであれ、ブルジョア革命と規定し、以後の歴史過程を資本制的社会構成体の発展過程だとする見解、(ロ)維新変革によって成立した天皇制絶対主義が、日本における資本主義の発展とともに「地主・ブルジョア天皇制」から「ブルジョア・地主天皇制」へと移行してはいくが、しかし絶対主義という階級の本質を保ったまま一九四五年の敗戦を迎えたとする見解、に整理することができる。わたしは、維新によって成立した天皇制は封建権力の最後の形態である絶対主義と考える

が、その絶対主義としての天皇制は、日本資本主義の発展とくに第一次大戦を契機とする独占資本主義の確立にとまなう経済的・社会的・政治的諸矛盾の変化につれて、自らを徐々にその変化に対応させ——いわゆる「上からのブルジョア革命」——でいったと想定している。この点についての荒筋はすでに書いたことがあるが、<sup>(1)</sup>それらは理論的にも実証的にも余りにもあら過ぎたため誤解をよんだ。<sup>(2)</sup>

そこで、あらためてわたし自身のテーマを明らかにするために、いま進めつつある作業は、①日本資本主義の発展構造の特質を農業・工業・商業・金融の全産業部門の発展のありようを追究することによって再検討し直すこと、②それに規定された階級構成の変化と特徴を明らかにすること、③日本の社会構造の変化に対応した統治諸機関とりわけその中枢としての官僚機構のありようの変遷と機能の変化を明らかにすること、④政策体系および法体系の変容を解明し、⑤最後に①～④を包括的にとらえることである。

(1) 拙稿「日本近代史分析の一視角(上)」(歴史評論二二二号)

拙稿「近代天皇制論」(講座日本史9)所収 東京大学出版会)

拙稿「村落構造の変化と行政の再編過程」(井上清編「大

日本資本主義確立期の「会社」および「役員名簿」)

(後藤)

六一(五〇一)

正期の政治と社会」所収 岩波書店)

共著『日本の階級構成』(大橋隆憲編 岩波新書)

(2) 宮地正人氏(史学雑誌第八一編第五号)、西田美昭氏(歴史学研究三九〇号)、中村正則氏(歴史学研究三九一号)らによる批判。

(2) この資本および資本家の存在形態を明らかにしようとする作業は、さきの①を検討するための一つの素材である。

この資料集は、第一部「会社および役員」、第二部「役員名簿」からなる。第一部は、『日本全国諸会社役員録』・「銀行会社要録」(明治三十二年、三十六年、四十二年、大正三年、八年)によって各年度頭初の会社名・公称資本金と払込資本金・銀行預り金・積立金・配当率および役員名(主として会長・社長・取締役・監督名、但し大正三年は省略)をとり、①「銀行・会社統計要覧」(明治四十四年刊)と『株式年鑑』(大正七年、八年版)で営業成績を補足し、②『日本銀行調査月報』・「勸業銀行月報」・「東京経済雑誌」・「東洋経済新報」・「財界三十六年譜」・各社史によって営業停止・休業業・合併を調査して作られたものである。③、④については、資料の関係上きわめて不十分にしか明らかにできなかった。この点は新資料を蒐集して埋めたいと考える。

第1表 『全国諸会社役員録』記載会社数

府県名	明治31年	36年	41年	大正8年	府県名	明治31年	36年	41年	大正8年
東京	492	777	920	1,869	福井	51	77	81	71
京都	243	219	185	161	石川	66	113	113	95
大阪	473	375	447	965	富山	100	141	172	137
神奈川	123	194	280	273	鳥取	11	21	35	31
兵庫	421	318	475	608	島根	31	59	69	42
長崎	54	67	74	86	岡山	150	117	137	110
新潟	273	258	230	148	広島	90	122	168	117
埼玉	47	112	111	67	山口	56	70	85	85
群馬	50	101	103	77	和歌山	58	85	84	101
千葉	47	116	103	68	徳島	16	30	44	55
茨城	57	111	104	54	香川	52	86	101	63
栃木	48	119	136	95	愛媛	99	120	112	107
奈良	56	51	37	32	高知	36	48	46	100
三重	112	126	111	92	福岡	226	250	199	238
愛知	310	314	313	261	大分	89	93	73	64
静岡	281	348	375	216	佐賀	46	71	73	95
山梨	55	117	119	46	熊本	59	54	55	56
滋賀	75	78	69	54	宮崎	20	31	25	23
岐阜	91	114	112	87	鹿児島	13	26	35	45
長野	117	349	294	99	北海道	53	135	183	195
宮城	33	72	61	81	台湾	7	22	34	134
福島	37	46	86	119	沖縄		10	20	15
岩手	15	26	40	38	樺太			4	17
青森	34	59	79	39	朝鮮				132
山形	46	57	114	57	満州				159
秋田	26	51	83	36	合計	4,945	6,386	7,009	8,015

立命館経済学(第二十一卷・第五号)

六二(五〇二)

第一・二部とも昭和一〇年代までを整理することになっているが、ひとまず大正七年までで区切ったのは次の理由にもとづく。その基本的理由は、第一次大戦を契機として独占体の形成がすすみ、法人による株式所有がいちじるしく進展してくるため整理の基準を変えざるをえないことである。つまり、この時期以後になれば役員名をとただけでは資本家の存在形態を明らかにすることはできない。もつとも明治三十一年〜大正七年にいたる日本資本主義の確立期においても、必ずしも個人株主だけではなく法人による株式所有も存在していた。くわしくは別の機会に述べるが、三井・三菱・安田・住友など政商資本が直系企業はいう

までもなく傍系その他関連企業の株を所有する場合はそれである。しかし、この種の所有形態はまだ一般的ではなかった。それが一般化するのは大正十年代に至ってからである。

ところで『日本全国諸会社役員録』に記載されている会社数は第一表の通りである。それらの会社は、資本金十万円以上に限定した大正七年度以外は、株式会社・合名会社を問わず会社と名のつくものは資本金の多寡を問わずすべて掲載する方式をとっている。もっとも調査・発行機関である商業興信所に対して回答のなかったものは記載もれになっている。それにしても、それぞれの時点の会社はほとんど網羅されているとみてよい。

記載された大きな会社のすべてを整理することは大変な労力と時間を要するため、ここでは一応資本金を明治三十一〜三十六年は五万円以上、明治四十一〜大正七年は十万円以上に限ることとした。そのさい、五万円以下および十万円以下のもので五万円以上および十万円以上の会社役員が兼任している場合には収録した。それは、資本の連関をみるために欠かすことのできない意味をもっているからであり、また第二部の資本家名簿を作成するうえで必要だからである。

日本資本主義確立期の「会社」および「役員名簿」(一)(後藤)

(3) さて、資料第一部の全面的な分析は、全部の掲載がおわった後に仔細に検討することにして、さしあたって三つだけ指摘するに止めよう。

その第一は、企業の大小の区分を、これまで通俗的には資本金あるいは雇傭労働力数を基準として行ってきたが、それは必ずしも正しいとはいえないということである。その一例として銀行の場合をみると、資本金の大小と預り金の大小したがって積立金の大小は必ずしも比例してはいない。いいかえると、資本金が少額であっても預り金は大きな銀行が数多く存在しているのである。そのことは、資本金額による大小の区分を適切ではないものになっている。また、巨大資本家が、きわめて少額の資本金でしかない会社の役員を兼ねている場合がしばしばみられる。例えば、大川平三郎の明治四十一年度の関係会社をみれば、磐城採炭(資本金五十万円)・四日市製紙(同七十五万円)・九州製紙(同百万円)・日本錯酸製造(同三十万円)・中央製紙(同五十万円)・東洋硝子(同三十万円)・竜東木材(同二十万円)・東洋ゴム(同十五万円)となっており、これらも資本金額で単純に割切ってしまうことはできない。したがって、このことから考えれば、企業の規模別区分は何

らかの新しい基準を必要とすると思われる。

第二は、野呂栄太郎・山田盛太郎氏によって指摘され、もはや古典の規定となつてゐる——日本における産業資本の確立が独占資本と金融資本への同時的転化であるという見解を具体化し深めるうえでこの資料は相当な寄与をするであらう(3)。同時にまた、その同時転化という場合においても、産業部門別にみればなお検討すべき点が多いこともこの資料集は示してもゐる(4)。

第三に、産業資本の確立期に政商資本グループによる独自の再生産圏がつけられつつあり、日清戦後および日露戦後のいわゆる「戦後経営」なるものが、多くの中小資本を犠牲にしたがらそうした特徴的構造を創出していたことを、この資料集からよみとることができるであらう。

もちろん、日本資本主義の全発展構造をこの資料集だけからつかみとることはできない。いうまでもなく、農業をふくめて資本制的再生産構造がどのように生成してくるかは、諸産業の全面的分析によつてはじめて明らかにされうるものである。そういう意味で、この資料はそのための一つの補助材料にしかならないのである。

(3) その一つの素材として、安田承をとつてみると、明治四十一年にすでに第二表のような構成をとつてゐる。

(4) 運輸・倉庫業の主要なものは、ほとんど政商資本によって占められており、また工業部門においても造船・紡績業の独占化は明治四十一年をとつてみてもいちじるしく進んでゐた。けれども、鉱山その他の部門では中小規模の企業が数多く存在している。いまその一例として鉱業を示せば第三表のようになつてゐる。

(4) 資料第一部は府県別に企業種類別で順次発表するが、かなり大部なものであるため掲載し終わるまでには相当の時日を要するものと思われる。その掲載が終つたのちに第二部の役員名簿を発表する。それは、明治三十一年と大正七年の各年度での役員個々人の生没年・族籍・関係会社名・持株又は出資金および土地所有・所得税を登録したものであり、これも府県別にアイウエオ順に配列して発表したいと考えてゐる。この名簿作成の資料は、前掲諸書のほか「紳士録」・「人事興信録」・「大日本人名辞典」・「明治過去帳」・各伝記等であるが、詳しくはその掲載時に述べる。

なお、今後この資料の完全を期する上で、資料の所在や整理法について大方の御教示を得れば幸である。

第3表 鉱業資本家 (明治41年)

○は社長 ○以下は取締役 △以下は監査役

会社名	創立	資本	積立	配当	重	役	名	
磐城炭礦	17年	80万	25万	15%	○淺野 總一郎	渡部右衛門	佐久間 精一	岡部 眞五
茨城探炭	34	70	5.6	15	○阿波 吾榮一	岡本 儀兵衛	△淺野 總一郎	鹿島 岩藏
石狩探炭	39	750	1.9	8	○中野 武衛門	△馬前 恭密郎	村夫 吉兵衛	若尾 幾造
磐城炭山	38	5			○大増 福十郎	△馬前 恭密郎	増川 定吉	若山 麟之助
磐城探炭	40	50			○加藤 為三郎	△小川 平三郎	小川 安兵衛	水野 忠雄
茨城無煙炭坑	35	5.5	5.8	10	○伊藤 榮九郎	△大辨 平三郎	△大野 清敬	山本 忠景
芳谷無煙炭	27	12	77	40	○山田 計三助	△外村 宗治郎	△山内 忠房	山本 忠景
植田無煙炭	33	15			○山田 計三助	△外村 宗治郎	△山内 忠房	山本 忠景
伊山探炭	32	3			○山田 計三助	△外村 宗治郎	△山内 忠房	山本 忠景
伊山探炭	27	75	44.8	15	○野宮 謙之助	△山内 忠房	△山内 忠房	山本 忠景
日本煉炭	30	100	9.5	8	○野宮 謙之助	△山内 忠房	△山内 忠房	山本 忠景
東洋煉炭	39	50			○野宮 謙之助	△山内 忠房	△山内 忠房	山本 忠景
東北煉炭	40	100			○野宮 謙之助	△山内 忠房	△山内 忠房	山本 忠景
王城炭礦	25	60	8	30	○野宮 謙之助	△山内 忠房	△山内 忠房	山本 忠景
城戸炭礦	41	100			○野宮 謙之助	△山内 忠房	△山内 忠房	山本 忠景
大石炭山	39	5			○野宮 謙之助	△山内 忠房	△山内 忠房	山本 忠景

日本炭本主業種大頭の「会社」年々「炭電汽機」(一)(終巻) 大田 (五〇五)

名	役	重	配当	積立	資本	創立	社名	会社
千足	藤太郎	吉田	義兼	小	500	40	加納山	加納山
近一	徳松	小林	義五郎	野田	20	40	阿波山	阿波山
山崎	徳松	野田	義兼	小	50	39	好問山	好問山
中島	貞藏	野田	三郎	大	175	40	但馬山	但馬山
村上	正若	野田	吉	三	25	40	綴辰山	綴辰山
中島	吉	野田	三郎	三	20	39	三井山	三井山
丸五郎	小之吉	野田	七郎	高	200	26	倉谷山	倉谷山
丸五郎	孝助	野田	一	三	20	27	日谷山	日谷山
山崎	新七	野田	七郎	高	200	39	豊前山	豊前山
山崎	七郎	野田	七郎	高	50	39	夕張山	夕張山
田中	源太郎	野田	七郎	高	110	43	夕張山	夕張山
荒田	源太郎	野田	七郎	高	5	39	夕張山	夕張山
田中	源太郎	野田	七郎	高	610	40	夕張山	夕張山
荒田	源太郎	野田	七郎	高	40	32	夕張山	夕張山
田中	源太郎	野田	七郎	高	14	40	夕張山	夕張山
荒田	源太郎	野田	七郎	高	20	36	夕張山	夕張山
田中	源太郎	野田	七郎	高	2.7	39	夕張山	夕張山
荒田	源太郎	野田	七郎	高	50	39	夕張山	夕張山
田中	源太郎	野田	七郎	高	2	40	夕張山	夕張山
荒田	源太郎	野田	七郎	高	500	39	夕張山	夕張山
田中	源太郎	野田	七郎	高	5	39	夕張山	夕張山
荒田	源太郎	野田	七郎	高			夕張山	夕張山

京

東



会社名		創立	資本	積立	配当	重役名		
〔長崎〕	槻木山	39	1		窪田 操	石橋 昌栄	井上 宇兵衛	
	ライマルズ鉱業	38	2		M.ゾリエムル 0.ライマルズ (独乙)			
〔長崎〕	中松浦田	39	1		篠崎 佛吉	片岡伊右衛門	△松本 重太郎(以上大阪)	井上 源太(長崎)
	岩田敏業	35	20		◎今西林三郎 ◎高野 徹之進 △高 山 庄 吉	○青木 善太郎 ○佐藤 茂十郎	△松本 重太郎(以上大阪)	井上 源太(長崎)
〔新潟〕	岩田敏業	33	30		伊藤 浜次郎		横山 金作	足立 波吉
	群馬	39	3		◎布留川 尚豊 山 岡 敏次郎 ◎林 田 喜八 ◎武藤助右衛門 ◎岩谷 瀬初次郎	○柴田善右衛門 ○柴田善三郎 ○松田久左衛門 ◎水谷 幸次郎 ◎早川 濠夫	佐松 八十七平 藤井 俊吉 細川 音吉	服部 吉弥 長谷川治郎七 △栗田 仁太郎
〔愛知〕	尾張濃濃	40	20					永井 洵一
	奥美濃濃	37	50					△栗田 仁太郎
〔岐阜〕	田沢炭礦	35	10					△渡辺 安之丞
	奥美濃濃	38	5					
〔長野〕	田沢炭礦	30	2.6	0.4	6	◎小島 浪八 △柳 沢 高義	○下村 隼三郎 △滝 沢 架三郎	小宮山寅之助
	信濃炭礦	35	10		0	◎宮 沢 高義 ◎佐々木鉄太郎 ◎大島 要三 遠藤 君 藏	○山 崎 与三郎 ○山 村 重五郎	宮原 三平 △柴本 泰藏 唯一郎 高岡 安太郎
〔福井〕	石城炭礦	40	50					遠藤 万作
	大和田炭礦	38	5					鯨岡 徳次郎
〔石川〕	大和田炭礦	41	10					大和田金之助
	富田炭礦	40	1					湯上 与作
〔富山〕	信越炭礦	35	3					湯上 与作
	信越炭礦	35	3					稻垣 万四郎











行名	創立年次	資本金(私込)	再割引手形	割引手形	預貯金	貸出金	積立	地益	配当率	支店	役員				
											32年	36年	41年	44年	大正7年
大3	43	15( 9)		3.5	19.9		49.1		0	1	松尾 庄助 西尾 半藏 落合八左衛門 松尾 庄助 田中鉄五郎				
岡本銀行	22	32 36				6.7 2.3			5	2	◎岡本 善七 岡本 良吉	◎岡本 善七 ◎岡本 善七 ◎岡本 善七 ◎岡本 善七			
我窪銀行	32	36	10( 2.5)						2	1	◎清水 初五郎 ◎松本 初五郎 ◎小俣 福藏 ◎須田川 新右衛門 ◎字 中 榎井 泰林 ◎金八 藤藏 ◎井口 新之助 ◎吉				
富士野蓄銀行七 改称 大5	43	41 43													
加藤佐野蓄 農工貯蓄七改称	34	36 39	3( 1.5)			53.8 28.7	19.8 6.0	0.9 0	0	1	◎淀口 健兵衛 ◎梁 栄見 ◎勇吉	◎中山 西川 ◎吉田 良吉	◎中山 西川 ◎藤田 良吉	◎藤田 良吉 ◎岩田 重四郎 ◎吉田 善三郎	◎藤田 良吉 ◎岩田 重四郎 ◎吉田 善三郎
加路銀行	34	36	50( 50)			38.0	5.5				◎加賀 菜三郎 ◎土屋 重三郎				
加満屋銀行	38	39			40.8	45.1	13.2	0.3	0	0	◎大塚 金兵衛 ◎藤岸 良次郎 ◎藤岸 平助 ◎橋本 久次郎	◎大塚 金兵衛 ◎藤岸 良次郎 ◎藤岸 平助 ◎橋本 久次郎	◎大塚 金兵衛 ◎藤岸 良次郎 ◎藤岸 平助 ◎橋本 久次郎	◎大塚 金兵衛 ◎藤岸 良次郎 ◎藤岸 平助 ◎橋本 久次郎	◎大塚 金兵衛 ◎藤岸 良次郎 ◎藤岸 平助 ◎橋本 久次郎
春日銀行	41	41							0	2	◎河部 善藏 ◎白木 篤三郎 ◎馬場 豊三郎	◎河部 善藏 ◎白木 篤三郎 ◎馬場 豊三郎	◎河部 善藏 ◎白木 篤三郎 ◎馬場 豊三郎	◎河部 善藏 ◎白木 篤三郎 ◎馬場 豊三郎	◎河部 善藏 ◎白木 篤三郎 ◎馬場 豊三郎
宮城銀行七改称	34	41							4	4					
葛飾銀行	31	36	20( 10)								◎島田 弥左衛門 ◎高橋 内藤 ◎佐吉藏 ◎三蔵 ◎小 勘 ◎右衛門 佐久間 ◎福太郎	◎島田 弥左衛門 ◎高橋 内藤 ◎佐吉藏 ◎三蔵 ◎小 勘 ◎右衛門 佐久間 ◎福太郎	◎島田 弥左衛門 ◎高橋 内藤 ◎佐吉藏 ◎三蔵 ◎小 勘 ◎右衛門 佐久間 ◎福太郎	◎島田 弥左衛門 ◎高橋 内藤 ◎佐吉藏 ◎三蔵 ◎小 勘 ◎右衛門 佐久間 ◎福太郎	◎島田 弥左衛門 ◎高橋 内藤 ◎佐吉藏 ◎三蔵 ◎小 勘 ◎右衛門 佐久間 ◎福太郎
東武銀行	42	41	20( 10)						10	10					



大倉組總算(銀二十一兩・銀五兩)

廿七(五十六)

行名	船差	年次	資本金(私込)	借入金及		預り金	貸出金	積立	純益	配	支店	員			
				再割引手形	割引手形							32年	36年	41年	44年
勸業貯蓄	33	36 41 44 7	5(1.2) 5(3) 10(10) 10(10)	1.1	1.0 10.6	0.5 14.1	0.1 5.7	0 0.3	0.3	8		◎宇野勝三郎 ◎山田出七兵衛 ◎山田出七兵衛	◎高橋藤兵衛 ◎須田利三郎 ◎須田利三郎 ◎小町利三郎 ◎松田義助 ◎石井眞三	◎須田利三郎 ◎小町利三郎 ◎松田義助 ◎石井眞三	◎中島榮次 ◎大塚芳季
起業銀行	29	36 39 41 42 7	17(16) 50(35) 50(35) 25(11) 25(11)	0.5 1.1 3.2	7.2 15.8 15.3	8.3 3.3 14.8 75.0	30.6 37.4 15.3 80.0	0.2 0.2	0.3 3.5	0 10 10		◎大木風間千太郎 ◎金井石太郎 ◎大木右衛門 ◎鈴木龍之助	◎大木長安 ◎大木山吹 ◎大木山吹 ◎山口源藏	◎大木善治 ◎阿崎山崎 ◎山口源藏	◎大木大管 ◎大木善山 ◎山口源藏
本場銀行	31	32 36 39 41 44	5(1.2) 10(4) 10(4) 10(4) 10(4)	5.5 8.7 20.5	31.7 81.5 137.2	8.6 10.0 51.6 84.1	10.8 17.2 40.3	0.5 0.9 1.5	0.4 1.0 1.3	8 8 8	1	◎新塚佐之助 ◎松本忠次郎 ◎山田喜助	◎新塚佐之助 ◎山田喜助 ◎山田喜助 ◎山田武兵衛	◎新塚佐之助 ◎山田喜助 ◎山田喜助 ◎山田武兵衛	◎新塚佐之助 ◎山田喜助 ◎山田喜助 ◎山田武兵衛
金山銀行	31	32 36 39 41	10(10) 7(3) 7(3)	5.7	6.6	3.0 4.7 4.5	11.7	0.4 4.4	2.4	6 5		◎北川上安之助	◎北川上安之助	◎米山利之助 ◎米山利之助	
金城貯蓄銀行	29	36 39 41 44 7	10(2.5) 10(2.5) 10(2.5) 10(2.5) 10(2.5)		3.6 20.2 25.2	50.4 76.3 140.4 169.7 323.0	0.1 0.1 3.3 18.0	0.7 1.0 1.6 0.2	0.1 0.4 0.2	8 8 8 8	3 7 7	◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎	◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎	◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎	◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎 ◎安田善四郎
京橋銀行(合併)	29	32 36 39 41	30(21) 60(37) 60(51)	16.0	129.8	114.0 202.0	66.8	0.4 4.0 9.0	4.3	10	1	◎中沢彦吉郎 ◎中沢彦吉郎 ◎三枝与三郎 ◎三枝与三郎 ◎田村藤兵衛 ◎田村藤兵衛 ◎福原	◎中沢彦吉郎 ◎中沢彦吉郎 ◎三枝与三郎 ◎三枝与三郎 ◎田村藤兵衛 ◎田村藤兵衛 ◎福原	◎中沢彦吉郎 ◎中沢彦吉郎 ◎三枝与三郎 ◎三枝与三郎 ◎田村藤兵衛 ◎田村藤兵衛 ◎福原	◎中沢彦吉郎 ◎中沢彦吉郎 ◎三枝与三郎 ◎三枝与三郎 ◎田村藤兵衛 ◎田村藤兵衛 ◎福原
九十五銀行(合併)	11	32 36 39 41 44	20(20) 5(5) 5(5) 100( )			24		7.0				◎小林茂林 ◎大錢尾米林 ◎近三橋長作	◎小林茂林 ◎大錢尾米林 ◎近三橋長作	◎小林茂林 ◎大錢尾米林 ◎近三橋長作	
共同銀行	33	36 39 41 43	50(15) 50(15) 50(15) 50(15)	1.0 1.0 2.0	28.0 38.3 63.5	20.1 10.5 66.1	2.4 2.8 26.8	0.1 0.7	0.4 7.3	0 5		◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎	◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎	◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎	◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎 ◎野野孝太郎







行名	創 年次	資本金(法廷) 円	借入金 円	預り金 円	貸出金 円	積立 円	配当 円	支店	役員						
									32年	36年	41年	44年	大正7年		
実業銀行 営業停止	30 大5	32 36 41	100 100 100	5) 5) 5)	1.7	2.0 2.0 0.2	1.0	0.3	-1.3	5	0	0			
川銀行	29	32 36 39	100 100 100	4) 6) 8)	24.3 21.3 46.7	22.0 49.7 20.0	16.4 35.8 25.1	0.8 1.2 1.6	2.7 2.0 2.0	9 9 7	1 1 1	1	◎大塚 ◎加藤 ◎石松	◎相川 ◎杉川 ◎井上	◎相川 ◎田坂 ◎杉浦
芝銀行	23	32 39 41 43 43 7	80 200 200 200 200 200	8) 11) 18) 20) 20) 20)	38.0 38.6 57.2 22.7	31.0 48.1 58.7 74.0	17.9 51.9 61.5 59.3	2.5 4.0 7.2 10.6	1.7 3.2 2.3	11 11 10 10	0 0 0 0	0	◎浅羽 ◎義徳 ◎浅羽 ◎浅羽 ◎浅羽 ◎浅羽	◎菅谷 ◎菅谷 ◎菅谷 ◎菅谷 ◎菅谷	◎菅谷 ◎菅谷 ◎菅谷 ◎菅谷 ◎菅谷
十五銀行 浪速・川崎・酒大8 銀行合併	10	32 36 39 41 43 43 7	1,800 1,800 1,800 1,800 1,800 4,000 2,350	32) 36) 39) 41) 43) 43) 7)	1,192.9 3,219.6 2,939.6 8,422.2 1,978.4	1,386.0 1,979.9 1,613.0 3,318.0 3,239.0 7,231.0	216.1 391.5 977.0 3,254.5 3,171.7	174.1 116.0 160.0 370.0 635.0	92.6 358.9 210.6 307.9 173.6	8 8 9 9 9	1 1 1 1 2	1	◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本	◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本	◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本 ◎山本
商賈銀行 解散	23 42	32 36 41	100 100 100	4) 5) 8)	8.5	9.0 9.5 11.7	7.1	0.2 0.5 0.6	0.4	8	3				
商工銀行 口通銀行に合併	33 42	36 41	300 300	7.5) 10.5)	12.9	14.0 27.2	18.4	0.4 1.4	0.9 1.0	8	10				



行 名	創 立 年 次	資本金(法金)	借入金及 再割引手 形	預引手形	預少金	貸出金	積立	純益	配 当 率	支店	員				
											32年	36年	41年	44年	大正7年
總房中央銀行 旗川岸銀行を合 併	34 41	400 40			5.0					7	役	久官 小宮 安藤	正理 錦木 松久		
第一銀行を合併 二十銀行を合併 京都精工銀行を大 合併	6 45 39 41 44 7	450 500 500 1,000 1,000 2,270(2,055)								9 10 12 12 16	役	久官 小宮 安藤	正理 錦木 松久		
第三銀行	9	240 240 240 240 500 370 750								12 14	役	久官 小宮 安藤	正理 錦木 松久		
第七十八銀行 解散	11 42	60 60 60 60								8	役	久官 小宮 安藤	正理 錦木 松久		
第百銀行	11	32 36 39 41 44 7	40 40 40 60 200 200 400 1,000							30	役	久官 小宮 安藤	正理 錦木 松久		
第百十二銀行	11	32	100							32	役	久官 小宮 安藤	正理 錦木 松久		















大倉組通算簿(第二十一卷・第五頁)

九〇(五三〇)

行名	創立年	年次資本金(私占)	借入金及び 特別引当金	預り金	貸出金	積立	純益	配当率	支店	役員				
										32年	36年	41年	44年	大正7年
中井銀行	16	32	70(70)			16.5		5	4	◎中井右衛門 普沼慶藏	◎中井右衛門 普沼慶藏	◎中井右衛門 普沼慶藏	◎中井右衛門 中井電次郎	◎中井右衛門 野島泰次郎
	36	39	100(100)	5.0	468.4	20.0	6.2	5	5	◎中井右衛門 普沼慶藏	◎中井右衛門 普沼慶藏	◎中井右衛門 普沼慶藏	◎中井右衛門 中井電次郎	◎中井右衛門 野島泰次郎
中橋銀行	33	36	10(2.5)			180.0	16.9	5	11	◎佐藤幸孝 佐藤今	◎佐藤幸孝 佐藤今	◎佐藤幸孝 佐藤今	◎佐藤幸孝 佐藤今	◎佐藤幸孝 佐藤今
	41	44	100(100)	104.2	1,138.0	92.0	15.9	5	9	◎佐藤幸孝 佐藤今	◎佐藤幸孝 佐藤今	◎佐藤幸孝 佐藤今	◎佐藤幸孝 佐藤今	◎佐藤幸孝 佐藤今
成木銀行	33	36	5(2.5)			0.3	0.1			◎佐藤谷五郎 中島右衛門	◎中島右衛門 井上五郎	◎中島右衛門 井上五郎	◎市川惣左衛門 井上五郎	◎市川惣左衛門 井上五郎
	41	44	5(3.7)			2.0	15.8	9	5	◎市川惣左衛門 井上五郎	◎市川惣左衛門 井上五郎	◎市川惣左衛門 井上五郎	◎市川惣左衛門 井上五郎	◎市川惣左衛門 井上五郎
第一銀行(合併)	10	32	50(50)			271.0	8.0			◎尾島重綱 川村義方	◎尾島重綱 川村義方	◎尾島重綱 川村義方	◎尾島重綱 川村義方	◎尾島重綱 川村義方
	45	44	200(145)	115.2	519.8	32.0	14.5	7	5	◎尾島重綱 川村義方	◎尾島重綱 川村義方	◎尾島重綱 川村義方	◎尾島重綱 川村義方	◎尾島重綱 川村義方
二十七銀行	10	32	100(65)			107.0	9.0	0	0	◎渡辺右衛門 渡辺三郎	◎渡辺右衛門 渡辺三郎	◎渡辺右衛門 渡辺三郎	◎渡辺右衛門 渡辺三郎	◎渡辺右衛門 渡辺三郎
	36	39	100(65)			117.0	13.0	8	0	◎渡辺右衛門 渡辺三郎	◎渡辺右衛門 渡辺三郎	◎渡辺右衛門 渡辺三郎	◎渡辺右衛門 渡辺三郎	◎渡辺右衛門 渡辺三郎
西島銀行	43	44	100(100)	132.7	212.1	72.0	4.0	0	0	◎西島健治 西島乙種人	◎西島健治 西島乙種人	◎西島健治 西島乙種人	◎西島健治 西島乙種人	◎西島健治 西島乙種人
	44	47	100(100)	212.0	411.3	153.5	17.5	0	0	◎西島健治 西島乙種人	◎西島健治 西島乙種人	◎西島健治 西島乙種人	◎西島健治 西島乙種人	◎西島健治 西島乙種人
日進銀行	40	44	100(25)	18.5	30.1	23.8	5.1	0.1	3	◎梶田清兵衛 中居百助	◎梶田清兵衛 中居百助	◎梶田清兵衛 中居百助	◎梶田清兵衛 中居百助	◎梶田清兵衛 中居百助
	42	44	100(40)	0.5	130.4	154.2	39.4	1.8	3	◎梶田清兵衛 中居百助	◎梶田清兵衛 中居百助	◎梶田清兵衛 中居百助	◎梶田清兵衛 中居百助	◎梶田清兵衛 中居百助













村井貯蓄銀行	45	36	5(4.6)	17.2	0.1	0	◎佐山 三郎兵衛 殿田五郎 菅田五郎 永井	◎村井吉兵衛 村井貞之助 村井五郎 村井孝市郎 村井
東武貯金銀行	32	7	5(1.2) 20(12)	941.0	3.4	6	◎村田 高田 義助 村田 崇七 徳丸芳之助	◎村井貞之助 村井五郎 村井孝市郎 村井
村田銀行	22	36	5(5)				◎村田 義助 村田 崇七 村田 崇七 徳丸芳之助	◎村井貞之助 村井五郎 村井孝市郎 村井
明治興業銀行	33	41	20(5)				◎大島 徳次 吉田 利貞 小林寿男	◎村田 好太郎 村田 好太郎 清水 景吉
紅葉銀行	44	44	100(100) 100(100) 500(250)	156.2	106.0 169.3 533.6	17.3 10.0 25.0		◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎
神田銀行	47	7		310.5	17.3 1,188.4	3.3		◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎
もも世界蓄銀行	33	36	5(5)					◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎
帝國勲業貯蓄銀行	36							◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎
森村銀行	30	36	50(50) 50(50) 50(50) 50(50)	231.3 532.3 501.9 501.9	196.1 339.0 181.4 1,217.0	13.5 24.0 32.0 38.5 2.8 68.0	◎渡辺彌三郎 西島 深八郎 深沢 金山 金山 弘三郎	◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎
郡城銀行	33	36	10(2.5) 100(26) 100(26) 50(12)	3.0	72.6	48.0	◎中島 尚三 三深 哲忠	◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎
明治商業銀行	29	32	300(120) 380(140) 380(152) 380(190) 380(190) 380(190) 1,000(615)	73.0 345.0 514.6 239.0 238.8 291.6 1,686.5	3.0 9.0 13.8 16.0 18.6 9.1 60.0	◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助	◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎	
信濃金融銀行	33	39		28.0	364.2	345.0	◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助	◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎
群馬商業銀行	45	44		105.0	499.9	633.0	◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助	◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎
併	7	7		119.5	661.7	769.6	◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助 ◎安田 善助	◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎 ◎三浦 三郎

行名	創立年	資本金(私込)	借入金及		預り金	貸出金	積立	純益	配当率	支店	役員				
			再割引手形	割引手形							32年	36年	41年	44年	大正7年
安田銀行	13	100(100)		432.4	771.0	1,432.0	105.0			11	◎安田善之助 安田善次郎 安田勝五郎 安田勝四郎 中根田山吉 山吉	◎安田善之助 安田善次郎 安田勝五郎 安田勝四郎 青木 安田善次郎	◎安田善之助 安田善次郎 安田勝五郎 安田勝四郎 青木 安田善次郎	◎安田善之助 安田善次郎 安田勝五郎 安田勝四郎 青木 安田善次郎	◎安田善之助 安田善次郎 安田勝五郎 安田勝四郎 青木 安田善次郎
矢沢銀行	33	10(10)		1,432.6	1,432.0	1,199.2	64.0			5	◎矢沢小兵衛 矢沢銀次郎	◎矢沢小兵衛 矢沢銀次郎	◎矢沢小兵衛 矢沢銀次郎	◎矢沢小兵衛 矢沢銀次郎	◎矢沢小兵衛 矢沢銀次郎
山崎銀行	32	5(5)		1,442.9	1,432.0	1,321.5	27.2			5	◎山崎兵衛	◎山崎兵衛	◎山崎兵衛	◎山崎兵衛	◎山崎兵衛
山三銀行	32	5(5)		1,161.5	1,161.5	1,279.8	78.5			3	◎佐藤正一郎 田中良藏 佐藤理兵衛	◎佐藤正一郎 田中良藏 佐藤理兵衛	◎佐藤正一郎 田中良藏 佐藤理兵衛	◎佐藤正一郎 田中良藏 佐藤理兵衛	◎佐藤正一郎 田中良藏 佐藤理兵衛
由木貯蓄銀行	32	3(3)		11,982.0	11,982.0	5,915.0	174.3			13	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎
豊貯蔵銀行	33	5(2) 5(3.5)	0.6	23.9	23.9	22.2	0.1		6	4	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎
四谷銀行	30	15(6) 20(14) 50(27) 50(27) 41(27) 90(27) 30(27)	2.0	79.3	28.0	16.2	2.0		10	2	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎	◎伊藤吉次郎 和田清次郎 西尾權次郎 清水仁三郎
銀行	34	15(4.5) 15(4.5)	0.5	8.5	1.2	0.5			0		◎荒井宗雄 加治寿南吉 早川光太郎 荒野由次郎	◎荒井宗雄 加治寿南吉 早川光太郎 荒野由次郎	◎荒井宗雄 加治寿南吉 早川光太郎 荒野由次郎	◎荒井宗雄 加治寿南吉 早川光太郎 荒野由次郎	◎荒井宗雄 加治寿南吉 早川光太郎 荒野由次郎





財産火災	32	36	10(4.5)	5.6					10	5		◎齊藤 倉七助 五島 新一門 星川 鈴木治右衛門						
酒家 ↓ 大阪生命合葬	26 35	31 36	30(7.5) 30(7.5)	3.7 3.1				0	2		◎宮川 作藏 小堀田 平吉 榎木 貞良 前田 周造 正名	◎新海 宮川 作藏 宮川 新一門 大河野 邦太郎 佐藤 貞藏						
神徒生命 営業停止	30 33	31	10(2.5)								◎坂倉 隆造 手塚 加 小林 伊太郎 村田 彦太郎							
第一火災海上 再保険	6	7	500(125)	34	806	11,577	71	0	7	1								◎坂田 実太郎 柳 次郎 尾高 修 渡辺 直温 志伊東 豊治 和田
第一機関汽罐保 険	41	41 43	50(12.5) 50(12.5) 50(12.5)	3 8	1	268	5	14	0									◎門野 縁之進 茅原 利兵衛 伊藤 鈴 横河 兵衛
第一生命	35	38 41 43 2	20(5) 20(5) 20(5) 13(5)	12 65 4.8 9.2	1.5 4.8 9.2	371 868 1,276	14 39 54	1.3 5.1 18	7 10 18		◎柳沢 保恵 大野 新一門 濱口 辰三 池田 左衛門 森村 市左衛門	◎柳沢 保恵 大野 新一門 濱口 辰三 池田 左衛門 森村 市左衛門	◎柳沢 保恵 大野 新一門 濱口 辰三 池田 左衛門 森村 市左衛門					
大正海上火災	大7		500(125)							2								◎柳田 新一 平庄 三郎 原 寛太郎 小川 博次郎 佐々木 勇之助

日本資本主義確立期の「公社」および「役員名簿」(一)(後藤)









六命鎮録類字(第二十一卷・第五号)

一〇六 (五五六)

社名	創立年	資本金(私込)	準備金	積立金	契約高	股入原簿料	貸付金	配当率	支店	役員			
										31年	36年	41年	44年
東洋海上	41	50(12.5) 100(25) 300(75)	4.6 5 148	1	93 218	12 26 143	2 10 15	6 8					大正7年 下坂謙利 豊好五郎 造吉 上眞造平 吉信 直平 牧井 樋口 豊田 三郎 直平 杉井 藤口 豊田 三郎 直平 松平 仲尾 和 各
東洋生命	33	50(12.5) 50(12.5) 100(25)	20 448	0.5	6,033		5 45	0 12	1 1				◎尾高 木下 原 豊田 直平 ◎尾高 木下 原 豊田 直平 ◎尾高 木下 原 豊田 直平 ◎尾高 木下 原 豊田 直平 ◎尾高 木下 原 豊田 直平
常盤生命	2	50(12)	101				1.6	5					◎大谷 嘉兵衛 英作 吉助 彦 ◎大谷 嘉兵衛 英作 吉助 彦 ◎大谷 嘉兵衛 英作 吉助 彦 ◎大谷 嘉兵衛 英作 吉助 彦 ◎大谷 嘉兵衛 英作 吉助 彦
内外火散	32	20(6) 20(9.6)	7.6					40 0	34				◎野塚 仁五郎 大野 三郎 秀 ◎野塚 仁五郎 大野 三郎 秀 ◎野塚 仁五郎 大野 三郎 秀 ◎野塚 仁五郎 大野 三郎 秀 ◎野塚 仁五郎 大野 三郎 秀
内国生命	26	50(12) 50(12) 50(12) 50(12)	116 159	26 3	987 1,513	39 52	18 35	9 10	4 4				◎大野 三郎 秀 野村 房次郎 秀 ◎大野 三郎 秀 野村 房次郎 秀
内国火災	32	30(7.5)						0					◎中島 祐三郎 野村 房次郎 秀 ◎中島 祐三郎 野村 房次郎 秀 ◎中島 祐三郎 野村 房次郎 秀 ◎中島 祐三郎 野村 房次郎 秀 ◎中島 祐三郎 野村 房次郎 秀



社名	創立	年次	資本金(私込)	準備金	積立金	契約高	収入 保険料	貸付金	配当率	支店	役員						
											31年	36年	41年	44年			
日本教育生命	29	31	30(7.5) 41(7.5) 30(7.5) 30(7.5)	30 56 75	1 1.6 3.7	215 275 349	10 16 21	0 9 7 1	8 10 10 20	5	神野念之助 飯村平兵衛 藤本清兵衛	薄井 安藤 松本 昌福	佳久 信昌	薄井 安藤	佳久 信昌		
日本共立火災 ↓ 火災 43	47	44	100(25) 500(130)	15 12				0	0	6	◎柳原 龍山	◎義光 雄雄	◎栗津 吉電 久保良 中隼	◎高倉 野英 太郎	◎大門 野重 九郎 尾松 下久 友五郎 中松 大倉 善次郎	◎栗津 吉電 久保良 永見	◎清亮 龍多 之助 吉電 次明
日本郵便火災海 上	44	44	200(50)	29			51	0	8	6						◎栗津 吉電 久保良 永見	◎清亮 龍多 之助 吉電 次明
日本生存	30	31	10(2.5) 10(2.5) 10(5.5)		1.6				0	1	◎小笠原 寿長 福田 昌隆 藤原 謙 藤原 謙	◎長谷川 宗治 文 一 助	◎服部 作太郎 山田 中 山 辰 龍 川 庄太郎				
日本鐵道(合併)	41	41		1.8													
日本徴兵	44	44	50(25) 100(25)	221	2,284			15	12		◎西野 綾之 進 足立 麻生 倉北 川岩 崎	◎足立 宗山 前山 中上 川次郎 吉					
仁寿生命	27	31	10(5) 38(5) 41(5) 10(5) 10(5) 100(100)	158 278 384 995	22 2 1 5	1,576 2,602 2,883 5,637	54 91 142 251	9 47 57 365	12 18 10 20	2 8	◎辻 各一 重太 久三 郎 三野 村利 信	◎辻 東一 郎	◎辻 長脚 三宅	◎新次 郎 藤三 秀	◎下柳 平三 郎 吉木 大 天川 半三郎		















鉄道名	創立年次	資本金(私込)	仕債・借入	建設費	噸教	乗客 万人	貨物 万屯	總收入	純益	配当 率	役員						
											31年	36年	41年	44年	大正7年		
											員						
日本 国有化	14 39	6,800(4,470) 6,800(4,650)								10	曾我利島 毛富田 長兵衛 良元 長四郎 邊三郎	曾我利島 毛富田 長兵衛 良元 長四郎 邊三郎 青田園					
武州	31	240( 4.8)									千坂善信 小坂藤井 小佐武 瀬戸口	高橋天助 岩倉五郎 岩倉宗明					
武相中央	31	250( 25)									西宮敬次郎 岩倉宗明 岩倉宗明 岩倉宗明 岩倉宗明 岩倉宗明	岩倉宗明 岩倉宗明 岩倉宗明 岩倉宗明 岩倉宗明 岩倉宗明					
北越	28 31	370( 370)			38						渡辺六清 原六清 今村延之助 末田茂 渡辺大倉	渡辺六清 原六清 今村延之助 末田茂 渡辺大倉					
北海道 国有化	35 39	800( 240)								0	北垣 國英 國英 國英 國英 國英 國英	北垣 國英 國英 國英 國英 國英 國英					









																			川村源太郎 吉田 隆徳 宇田 雪徳 島津 久信 福原 有信
大 川 海 運 大 6	7	100( 5)																	◎大 川 八郎 山田知太郎 山根徳之助 酒井善太郎
大 正 汽 船 大 7	7	500( 12)							.20										◎町 田 豊千代 皆川 芳蔵 藤田 謙一郎 渡辺勝三郎 岩崎 清七郎 今岡純一郎
大 德 汽 船 大 7	7	300( 120)							0.3										◎宇 都 宮 金之丞 岡崎 次郎 渡辺 五右衛門 島野 徳徳 宇田 雪徳 福原 有信
大 輝 海 運 大 7	7	500( 30)																	◎柴 田 清之助 広瀬 文郎 森下 善長 磯部 長正 鈴木 太郎 阿部 吉
大 陽 汽 船 大 6	7	100( 2.5)																	◎小 林 秀一 小野 太郎 大田 秀雄
千 代 田 汽 船 大 6	7	100( 100)							1.6										◎谷 澤 清之助 中井 昌雄 佐伯 俊太郎 松本 良太郎
東 京 海 運 大 6	7	500( 275)							1.10										◎井 口 延次郎 徳島 清次 木田 平蔵 小川 誠

大正船運株式(第二十一號・第五号)

1111 (五六一)

会社名	創立年	年次	資本金(払込)	社債・借入	船舶總屯數	船舶價	運費收入	積立	純益	配率	役員						
											32年	36年	41年	44年			
南洋汽船大3		7	150( 150)					90.6		20							大正7年 原田 六郎 松本良太郎 松伯俊 坂合 吾吉
日支炭礦汽船大6		7	300( 112)														◎白元治郎 高川平三郎 大泉嘉一治郎 今淺野泰八郎 淺田伊藤幸次郎 淺野總一郎
日本海運大6		7	1,500( 375)					9		10							◎林 公通 宮上藤太郎 大橋五郎 水橋本三郎 橋本安次郎 橋本喜郎 橋本佐三郎 橋本榮次郎 橋本五郎
日之出汽船大1		7	50( 12)														◎淺野泰治郎 尾城 壽 尾城 三郎 阿部 吾郎 鈴木致次郎
福川汽船大4		7	200( 125)														◎福川 忠平 福川 武平 福川 渡治 小坂 佐七
北海道炭礦汽船	22	39 41 43 7	2,700(2,025) 2,700(2,025) 2,700(2,518) 2,700(2,605)	600 600	0.8 0.8 0.6	89.2 35.2 23.3	20.2 39.1 24.4	112.9 142.7 187.0 450	127.4 245.3 9.1	15 14 0 12							◎岡 隆 藤村謙太郎 宇野 鶴太郎 高島 三郎 高島 三郎 和田 西次郎 山内 西次郎 山内 西次郎 坂内 幸雄

村井汽船大5	7	100( 100)							9	20									◎村井吉兵衛 村野栄三郎
山一汽船大6	7	300( )																	◎山下 山島 渡辺 市助 若船 三郎 榮次

日本資本主義確立期の「会社」および「役員名簿」(一)(後藤)

第2表 安田系関連図(明治41年)

◎は社長  
○は取締役  
△は監査役  
・は監督

〔金融機関〕



〔商事・産業部門〕